

## IV-3

# 子どもの事故に注意

当センターに寄せられる問い合わせの中には、小さな子どもをもつ保護者の方からの相談があります。さまざまな製品の安全性についての質問が多いのですが、中には誤飲・誤食に関連した相談もあります。育児経験のある方ならよくわかると思いますが、ハイハイをしだして、やがて歩き出し、活動領域が広がってきた丁度その時期と、手当たり次第に何でも口に入れる時期が重なり、保護者にとっては“目が離せない”状況になります。子どもの事故について注意点をまとめました。

消費者庁が令和4年7月に実施した消費生活意識調査によると乳幼児の育児経験が

ある2,201名のうち、約4割が転落や転倒の事故を経験しています（転落：43.8%、転倒：43.5%）。「転落」はイス、ベッド、階段、窓などからの転落事故で、「転倒」は段差、自転車などの乗り物などによる転倒事故です。

また、乳幼児の事故で医療機関を受診した場合の割合に注目すると、多い順に表1のようになります。

「やけど」は熱湯や暖房器具、アイロンなどによるもので、「誤飲」は磁石、吸水樹脂ボール、ボタン電池、たばこ、薬、お酒、洗剤などを誤飲した事故です。

【表1 消費生活意識調査 消費者庁令和4年7月実施】

(n=2,201)

乳幼児育児中の事故の経験	事故にあった経験があり、医療機関を受診した割合 (%)	事故にあった経験があるが、医療機関は受診していない割合 (%)
転倒	13.4	30.1
転落	12.8	31.0
やけど	11.1	13.9
誤飲	6.7	7.0
刃物によるケガ	4.0	14.3
窒息	1.2	4.9
おぼれ	1.1	8.4

当センターへの問い合わせで多い内容は、『ちょっと目を離したすきに、口に入れてしまった』、『かじったみたいなんだけど大丈夫かしら?』などです。口にした化学製品はさまざまですが、どの程度口に入れたかまではよく分からないことが多く、子どもの様子に異常が無くても、安全性が心配になって念のため問い合わせるケースもあります。誤飲・誤食事故は思わぬときに起こるもの、慌てないために応急処置や緊急時の連絡先などの情報を頭に入れておくことが大切です。

誤飲・誤食したものや量によって手当てが異なります。応急手当ての情報については、製品の表示、製品のメーカーの消費者相談室、**日本中毒情報センターの「中毒110番」**などで得ることができます。

吐かせるべきかどうか、何か飲ませたほうがいいのか困ったときは、専門機関に問い合わせましょう。



### ■もしものときは

厚生労働省

「子ども医療電話相談事業  
(#8000)について」

[https://www.mhlw.go.jp/  
topics/2006/10/tp1010-3.html](https://www.mhlw.go.jp/topics/2006/10/tp1010-3.html)



総務省消防庁

「全国版救急受診アプリ  
(愛称「Q助」)」

[https://www.fdma.go.jp/mission/  
enrichment/appropriate/  
appropriate003.html](https://www.fdma.go.jp/mission/enrichment/appropriate/appropriate003.html)



公益社団法人日本小児科学会

「ONLINE QQ こどもの救急」

<http://kodomo-qq.jp/>



中毒事故の場合は

公益財団法人日本中毒情報  
センター「中毒110番」

<https://www.j-poison-ic.jp/110service>

